平成２２年度　校内研究計画

１　見附小の教育信条

実生の輝きをつくろう！　見つけよう！

２　研究主題

意欲的に学習に取り組み、自分の考えを深める子の育成

～言語活動の充実を図り、論理的に思考する力を高める指導の工夫～

３　めざす子どもの姿

自分の考えを進んで表し、他とかかわり合いながら、自分の考えを見直したりより深めたりしようとする姿

４　研究主題設定の理由

（１）「実生の輝き」の意味するところ

実生：つぎ木やさし木に対して、種から発芽して生長すること。また、種から生長した草木。　(国語辞典より)

①「見小」と「実生」をかけている。
②実生の意味を目の前の子どもたちに当てはめたときの、
子どもたちの生き生きと輝く姿、子どもたちの成長・変容・喜び。
③子どもたち一人ひとりの成長・育ちをうながす日々の指導・取組のあり方。
④見附小学校のこれまでに築き上げてきた文化・財産の発展。

教師の構えとして、これらのことを生み出すことを常に意識しながら毎日の学習指導にあたっていく。

（２）児童の実態、学校の教育課題から

昨年度、以下の研究に取り組んできた。

① 各教科等における思考力・判断力・表現力を高める指導計画の改善。
② 的確に理解し論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成する研究授業の実施。
③ 各教科等において言語活動の充実を図り、知識や技能を活用する研究授業の実施。
④ 思考を支える Thinking tool を活用する研究授業の実施。
⑤ 読書意欲、学習意欲を高める取り組みの充実。
・読むことの日常化と読書力を高める読書活動についての取組。
・家庭学習を定着させるための保護者との連携方法の確立、確認システム、評価カード等のあり方。（中学校区研修会の実施。）
⑥ 電子黒板活用のあり方。
⑦ 生活科、総合学習の指導計画、人材活用計画の作成。栽培活動等を通した共創教育の充実。

これらの研究から、次のような成果と課題が見えてきた。

□ 成果
・ＮＲＴ学力検査に見られる高い偏差値。しかし、学級差や個人差が大きい。

１年	国語 56.0　算数 57.6	２年	国語 56.0　算数 57.6	３年	国語 52.9　算数 54.6
４年	国語 54.4　算数 58.0	５年	国語 55.6　算数 58.6	６年	国語 56.5　算数 57.8

・単元の中核となる学習内容の獲得場面において、書く活動や話し合う活動を通して、根拠をもって自分の考えをもつことができた。

▲ 課題
・互いにかかわりあって話し合いを進めること。依然、発言が対教師との関係が多い。
・話し合うことで考える視点を広めること。
・図・式・グラフなどの多様な表現で自分の考えを表出すること。
・児童アンケート「発言の仕方やノートのまとめ方が身についたか」の項目で肯定的評価が８１％に留まっている。

（３）新学習指導要領の完全実施（２３年度）に向けて

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。　　(総則の第１「教育課程編成の一般方針」抜粋)

このように、時代の要請としても必要不可欠なことであり、授業改善が強く求められている。

５　研究内容

① 問題解決学習をめざす授業実践

（中社研の指定を受け、全学年においても、その考えを生かした問題解決学習を進める。）

・子どもの問いや願いを大切にした授業。

・問いが連続する授業、単元構成。

② 言語活動の充実を図る各教科等の実践

・話型（根拠、比較、分類、関連付ける思考を促す話し方、聞き方）指導の工夫。

・メモ、記録、要約、説明、報告等の言語活動を取り入れた単元構成の工夫。

・他者とかかわって思考するペア学習、グループ学習等の工夫。

・資料やグラフ、表などを読み解く力を高める指導の工夫。

③ 論理的な思考を支える Thinking tool を活用した実践

・指導内容、追求方法等にふさわしい Thinking Tool 教材の研修

・論理的に思考する力を高めるための語彙指導の工夫

・電子黒板の活用の工夫

・校地内外の環境の活用のあり方

※Thinking tool とは、イメージマップ、相関図、チャート、問題解決図、サイクル図、分析表など。

④ 授業のユニバーサルデザイン化を基盤におく指導

・どの子も興味をもって分かりやすく学べる授業づくり

・焦点化、視覚化、共有化を意識した授業づくり

６　研究方法

（１）成果と課題の把握の手立て

○　日々の授業を大切にしながら子どもの事実の記録を取り、評価・分析に生かす。

○　公開授業・協議会、及び日常の授業における子どもの姿における教師の見取りを通して、思考力・判断力・表現力の高まり問題解決学習のあり方を評価する。

○　次年度に活用できる教科等の指導計画、人材活用計画が作成できたかを評価する。

○　学習意欲や理解度をみる意識調査（学校評価アンケート）を実施し、その分析から評価する。

○　基礎・基本の定着を見るＮＲＴ学力検査、全国学力調査、県小研学習指導改善調査等の結果分析を通して、求める学力の高まりを評価する。

○　年度末に研究集録「実生の輝き」を作成する。

（２）授業研修について

(1) 全体公開授業(中越社会科研究会プレ授業研究及び見附集会)

・プレ授業	**６月３０日（水）５限**	**授業者：１年：青木**	**３年：倉石**	**５年：草分**
・見附集会	**１１月１９日（金）４限**	**授業者：１年：青木**	**３年：倉石**	**５年：草分**

低・中・高学年部に分かれて公開授業のグループに所属し、授業公開者を中心に、単元づくり・指導案検討・授業参観・協議会を実施する。

(2) 個人公開授業

○個人研究として全教諭・講師（ＡＴを除く）が、一人１公開授業を行う。

○中社研と連動し、２・４・６学年からもそれぞれ一人ずつ、生活科・社会科で公開授業を行う。その後に学年部で協議会をもち、具体的な方策の有効性を検証する。指導者をおく。

○一人１公開授業は、教務の週予定に示す。前週の月曜までに連絡する。指導案は、原則、略案程度（Ａ４　1～2ページ）でよいが全員に配布する。(指導案の形式は別紙で示す。)

○学年部で必ず授業を参観し、参観者は授業参観後に「授業参観コメントシート」を渡す。また、学年部で協議会をもつ。

○「師がく」個別研修：初任者・総合研修対象者を除く全教諭・講師が年間２回公開する。

○「師がく」授業づくり総合研修：酒井哲、小澤。

７　全体研修の予定

①　４月１２日（月）　グランドデザイン・中社研・環境教育の共通理解
②　４月１５日（木）　校内研修計画の共通理解・外国語活動の共通理解
③　４月２６日（月）　全国学力調査採点・分析
④　５月３１日（月）　中社研プレ授業公開指導案検討会①
⑤　６月１４日（月）　中社研プレ授業公開指導案検討会②
⑥　６月３０日（水）　中社研プレ授業公開・協議会（１年：青木　　３年：倉石　　５年：草分）
⑦　７月　５日（月）　市教委訪問Ⅱ（生徒指導）
⑧　７月２６日（月）　県小教研学習指導改善調査採点・分析
⑨　８月3・4日（火・水）　外国語活動指導力・運営能力向上研修
⑩　８月　６日（金）　中社研事前授業及び個人公開授業研のまとめ（実施分）
（８月２１日（土）　中社研夏季集会）
⑪　８月２４日（火）　通常学級におけるユニバーサルデザインについて
⑫　８月２５日（水）　人権同和研修
⑬　８月２５日（水）　体力向上研修
⑭　９月２７日（月）　中社研見附集会単元構想検討会
⑮１０月　４日（月）　中社研見附集会指導案検討会①
⑯１０月２５日（月）　中社研見附集会指導案検討会②
⑰１１月　５日（金）　中社研見附集会指導案検討会③
⑱１１月１９日（金）　中社研見附集会　（１年：青木　　３年：倉石　　５年：草分）
⑲　１月　６日（木）　中社研見附集会及び個人公開授業研のまとめ(実施分)
⑳　２月　７日（月）　生活科・総合学習・生活単元学習の成果発表会
㉑　３月２８日（月）　本年度のまとめと次年度の研究の方向